

第 15 回情報技術・マルチメディア 研究会
「中堅・中小企業が目指す IT の高度活用とは」
～経済産業省が選んだ IT 経営百選とその具体例～

H18.2.14 (14:00 ~ 16:00)

講演者 鈴木大吉氏

米国では、1995 年をインターネット元年と称している。講演者は 1996 年から IT 研究会を毎月 1 回開催、現在 118 回を数えており、また経済産業省でもインターネットに注力しており、IT インターネットは優れた道具であるが使い方が問題だと言われている。

IT の世界は日進月歩であり、例えば、昨年秋頃から米国で使われ始めた「ロングテール現象」という言葉がある。書店では店頭には並べられない様な販売量が極端に少ない本でも、インターネット書店では掲載可能で、販売量の多い本から順にグラフ化したときに、横に長く伸びた尻尾の部分で稼ぐ現象を言う。例えば、インターネット本屋では 280 万冊が掲載されており、1 年で 1 冊程度しか売れない本で全体の売り上げの 4 割を占めていると言われている。同様な現象は、釣り道具屋にもあり、年商 3 億円を稼いでいる例がある。

経済産業省では、2004 年から中小企業の経営革新を IT の活用で応援する「IT 経営応援隊」を 2006 年度までの限定プロジェクトとして発足している。この中で、IT 経営教科書の作成、IT 経営百選等の事業を展開している。今回の講演では、IT 経営百選について、選考のポイント、ビジネス戦略・経営改革の視点、IT 高度活用の視点について述べ、IT 経営百選に選定された企業から、2005.5 に「IPAX 2005」展示会会場で開催された IT 百選認定証授与式で表彰された 111 社の内、大阪府の東海パネ工業(株) (最優秀賞)、大阪府の昭和電機(株)(最優秀賞)、大阪府の(株)ダン(最優秀賞)、富山県の(株)レスター(優秀賞)についてそのホームページ内容から企業の特徴を説明された。

オープン・コミュニケーション社会における企業経営では、情報は多対多として流れ、情報量が増大し、企業間連携の必要性が高まっている。また、経済社会のスピードアップとオープン・コミュニケーション社会に対応するには、IT の活用が不可欠であり、IT を情報の同時共有のツールとして活用するには、体系化、可視化、オープン化が必要である。IT 経営百選の選考ポイントには、企業がどのような理念で、どんな目的、目標に活用しなければならないかが盛り込まれている。すなわち、「ビジネス戦略・経営革新」、「IT 高度活用」の二つの視点から評価しており、134 社が応募し、111 社が最終的に最優秀賞、優秀賞、奨励賞、IT 活用賞に輝いた。

選考に際しては、ビジネス戦略・経営改革の視点では、1)業績が好調か、2)付加価値の高い商品・サービスを提供しているか、3)経営の自立化ができているか、4)経営のオープン化の観点から評価し、また、IT 高度活用の視点では、1)コミュニケーション高度化への活用、2)営業・マーケティング改革への活用、3)業務プロセスの高度化・統合化への活用、4)人材・ノウハウの高度活用・高度な経営管理の観点から評価している。

東海パネ工業(株)は、多品種微量のパネの完全受注生産システムを確立し、日本全国の 1 個・2 個の高品質・高機能パネの需要に対応している。昭和電機(株)は、送風機・プロアのメーカーで、営業部門のユーザーへのレスポンス時間が平均 10 分に短縮され、営業、設計、生産、経理に亘る一貫情報システムを構築している。(株)ダンは、靴下専門の一足単位の受注を最短で確実に納品させる SCM(サプライ・チェーン・マネジメント)を構築している。(株)レスターは、オーダーメイドの T シャツ、トレーナー、ポロシャツの製造販売会社で、顧客の希望通りの商品を自社生産して届けるシステムを構築している。

以上